

### 放射光施設誘致へ協議会 松島



東北地方の7国立大が国に建設を要望している「放射光施設」の誘致に向け、松島町は25日、施設誘致協議会を設立した。会長には大橋健男町長が就き、県や国への要望活動を加速させていく。

協議会は誘致に向け、①日本有数の観光地で宿泊施設などの受け入れ態勢が十分に整っている②仙台空港などへ交通の利便性が良い③地盤が固い④などの優位性を確認した。今後、シンボジウムや、次世代を担う子どもにも興味を持ってもらうための勉強会を開くことも決めた。大橋町長は「経済効果は大きく、持続的な町づくりが期待できる事業だ」と語った。

放射光施設は、エックス線などの「放射光」を使って物質の構造を分析する巨大な顕微鏡で、科学的な研究や素材開発など幅広い活用が見込まれている。県内では丸森、大郷町も誘致に名乗りを上げている。

松島町にあるマリニピア松島水族館は2015年5月で、88年の歴史に幕を閉じます。日本一のペンギン飼育数や珍しいイルカの繁殖など、様々な記録を樹立してきました。これは、果敢に挑戦を続けてきた飼育員と職員たちの物語です。(鈴木絵里奈)

\* 「とうとう、この日がやって来た——」。

1984年6月17日、マンボウを担当していた当時33歳の川村隆(63)は、はやる気持ちを抑えて、「ユーユー」の水槽へと向かった。「1」の文字を外して「2」をはめる。飼育日数の記録パネルが刻んだ「972日」。世界記録を

## マリニピアものがたり

①

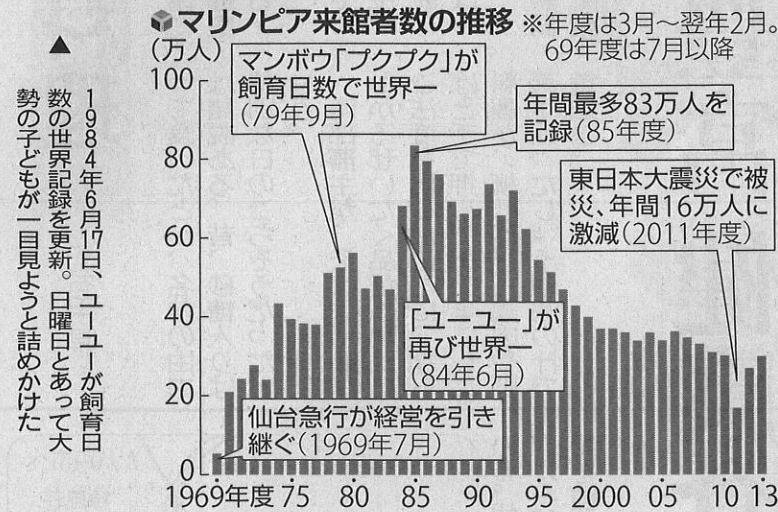


## 「ユーユー」フィーバー

達成した瞬間だった。「گریコ・森永事件」や「ロス疑惑」が世間を騒がせる一方、エリマキトカゲが一世を風靡した年でもあった。

マンボウ飼育に挑戦し始めたのは、76年にさかのぼる。「マンボウが捕れたけど声がかけれなかったのがきつかけだ。飼育を命じられたのが、入社したの川村だった。」おもしろい生き物だから、ぜひ飼育してみたい」とふつふつと興味を沸かせた。とはいえず、凶鑑の中の生き物でしかないのか。半信半疑で漁港へ向かった。運んできて入れたのは、空いていたウミガメ用の展示プールだった。

## マンボウ飼育で世界記録



そこで水槽内に透明なビニールシートを入れる方法を取り入れた。壁にぶつかる衝撃を吸収するためだ。効果はてきめん、壁に口やおでこが直接当たらなくなり、ぐんと長生きできるようになった。

「一緒に船に乗せてください」。川村は漁師に頼み込んだ。引き上げる際に力ギで体が傷つく、傷口から細菌が入ってしまう。「長生きさせるためなら何でもやる」。その一心が、川村を突き動かしていた。

努力が実を結び、79年9月、「ブクブク」が鴨川シーワールド(千葉県)の記録(426日)を抜いて世界記録を更新。マリニピアは、マンボウ

「海のものき者」と呼ばれるが、実際は繊細な性格で、飼育が難しい。生態にも謎が多い。現在の飼育担当・大山真哲(39)は「胃が痛くなる」と打ち明ける。常設展示する水族館は当時、全国にわずかしかなかった。

待ち受けていたのは、やはり苦難の連続だった。まずは餌。主に甘エビを与えていたが、「もっとほかの餌も混ぜた方がいいのでは」と思い、イワシを三枚におろしてみたが、死後に解剖すると、腸は傷だらけで胃からは骨の塊。骨の少ない小魚、クラゲ……。いろいろと試してみたものの、数十匹が1か月とたらず、次々と死んでいった。

「水槽に入れるのは果たして良いのか」。そんな疑問さえ浮かんだ。そのままに泳ぐためか、狭い環境に適応できない。ある日、水槽の壁に口やおでこを押しつける姿を川村は目撃した。ストレスがあるか、体に異常があるに違いなかった。



水槽の飾り付けも川村が担当した

## 思い出を募集

マリニピアの思い出を募集します。エピソードや写真をお寄せください。〒980-0021、仙台市青葉区中央2の3の6 読売仙台ビル3階、読売新聞東北総局に郵送か、ファクス(022・222・8386)、メール(tohoku@yomiuri.com)、「マリニピア連載」係へ。

「夢満坊天洋友游大姉」。1379日で天寿を全うしたユーユーには死後、もう一つ名前が付けられた。瑞巖寺で人以外に付けられた戒名はほかにない。そこには、「マリニピアを東北一活気ある水族館にしてくれた立役者」という、川村たちの感謝の思いが込められている。(敬称略)

菓子店「コヤマ菓子店」 気仙沼市

「遊び心」で新商品開発

120年以上の歴史を持つ気仙沼市でも屈指の老舗菓子店だ。5代目の店長、小山裕隆さん(36)のこだわりは「遊び心」。看板商品「はまぐりもなか」は「8個入り、税込み1300円」写真も、そんな心にクッキーの生地を流し込んでみた。キーの妙に合

「海のものき者」と呼ばれるが、実際は繊細な性格で、飼育が難しい。生態にも謎が多い。現在の飼育担当・大山真哲(39)は「胃が痛くなる」と打ち明ける。常設展示する水族館は当時、全国にわずかしかなかった。

待ち受けていたのは、やはり苦難の連続だった。まずは餌。主に甘エビを与えていたが、「もっとほかの餌も混ぜた方がいいのでは」と思い、イワシを三枚におろしてみたが、死後に解剖すると、腸は傷だらけで胃からは骨の塊。骨の少ない小魚、クラゲ……。いろいろと試してみたものの、数十匹が1か月とたらず、次々と死んでいった。

「水槽に入れるのは果たして良いのか」。そんな疑問さえ浮かんだ。そのままに泳ぐためか、狭い環境に適応できない。ある日、水槽の壁に口やおでこを押しつける姿を川村は目撃した。ストレスがあるか、体に異常があるに違いなかった。

ユウユーが再び世界記録を塗り替えると、町全体がお祭りムードに包まれた。飼育1000日目は町長が駆けつけ、「準名誉町民」の称号を贈った。マンボウを見て喜ぶ子どもたちを前に、この日はやはり、川村も心が躍った。年間の最多来館者記録83万人は、翌85年度に達成したものだ。



## 「遊び心」で新商品開発

メモ 気仙沼市田中前1の4の8。JR気仙沼駅から徒歩20分。午前10時～午後6時。日曜定休 ☎0226・22・0868

11年開いたメッカステなどの売りとびた。13年りしたくなく見たい